

カウンターを担当する利用者の伊石さゆりさん⑤の丁寧な接客は好評。ほとんどの客は福祉事業所とは知らずに来店するという



障がいと合理的配慮

思いやりを形に――

障がいのある人が、ない人と同じように暮らせる社会の実現につなげたい――。

昨年4月、障壁を取り除くための「合理的配慮」が国や自治体だけでなく、民間事業者にも義務化され1年が経ちました。

しかし、段差や色、文字の大きさなど、日常生活を送るだけでも難しい壁、社会的障壁に悩む人も少なくありません。

合理的配慮とはどういうことか。障がいのある人とどう向き合っていけばいいのか。関係者たちに話を聞きました。

社会福祉法人
三気の会
菊池郡大津町森54-2
☎096(293)8100



就労継続支援B型
BeTREE
菊池郡大津町
陣内314-1
☎096(284)1274



いる全ての人のための施策です。令和4年度に寄せられた、障がい者への不利益な取り扱い、虐待などに関する本人や家族からの新規相談は県内で83件。ピークだった平成30年度の203件から減少していますが、今後も当事者の話を聞き、相互理解を深める必要があります。

「誰もが凸凹や個人差があります。それをどうやったら生かせるかと考えながら、楽しく働けるような職場づくりを大切にしています」と今池さんは話し、続けます。「ここに来れば、障がいがある人もない人も共に理解し合える。そんな場所になりたいですね」

違いを認め合いながら、それぞれの特性を生かそうとする動きは広がっています。

「福祉」を売りにしない店

県道207号沿いにあるベーカリーカフェ「BeTREE」(大津町陣内)。天然酵母を生かしたさまざまな種類のパンが並びます。その特徴は障がいのある利用者が中心となつて接客や製造に携わっていること。「一人一人違うみんな、人気のカフェにも負けないような店を目指しています」とサービスマン責任者の今池一成さんは話します。

質の高いパンにこだわり、清潔感のある店づくりを進めた結果、売り上げが増加。利用者が得る収入も以前に比べ2倍近くに増えました。「利用者のために、そして店を続けていくためには、利益を出さなければいけない。商品やサービスが魅力的なら、きつとお客さんは来てくれると思いました」

共に理解し合える場所に

社会福祉法人三気の会が運営する大津町のベーカリーカフェ(就労継続支援B型事業所)では、違いを認め合い、互いに行き合えることを考えるなど、相互理解が深まっています。



BeTREE
いま いけ かず なり
今池一成さん

誰もが凸凹や個人差がある

普段の生活の中で障がいのある人には利用が難しく、活動が制限されてしまうことがあります。こうした社会的障壁を取り除くための「合理的配慮」が、昨年4月から民間の企業や学校、団体へ、義務化の範囲が拡大しました。

これまで国や自治体に配慮を義務付けていた障害者差別解消法を改正したもので、何らかの障がいや病気など、社会に残る障壁によって暮らしにくさを感じて

政府広報オンライン



社会的な障壁をなくす合理的配慮

活動が制限される社会的な障壁があった場合、過重な負担にならない範囲で求めに応じる「合理的配慮」。しかし、内容は障がいの特性や場面、状況に応じてさまざまです。ここでは一例を紹介します。

肢体不自由

車いす利用者の移動をサポートする

視覚障がい

▶資料の点字を作成する ▶読み上げで伝える

聴覚障がい

筆談や手話、イラスト、写真などで意思疎通

知的障がい

ゆっくり、はっきり話す

精神障がい

落ち着かない様子のとき、別室で休めるようにする

株式会社ハッピーブレイン

合志市御代志1661-1ルー口合志303号 ☎096(344)0007



えスポーツを通じてサポート事業を障がい者や高齢者向けに行っています。毎月のオンラインイベントの他、年に数回会場を設けてえスポーツ大会を開催し、参加者は全国から集まっています。

以前は理学療法士として16年間リハビリの仕事をしていました。患者さんと向き合う中で、退院しても閉じこもる人が多いことに気付き、障がいのある人が社会参加できるものはないかと模索していました。

そんな時、えスポーツに出会って「これだ」と思い、仲間たちと一緒にハッピーブレインを立ち上げました。同じ土俵で勝負するので、誰もが対等にコミュニケーションが

「ごちゃまぜの世界をつくりたい」



代表取締役
池田竜太さん



えスポーツをする参加者。誰もが参加できるようなゲームの制作にも取り組む

取れることが強みです。重度の障がいがある子どもを持つ両親から「けんかや仲直りをする機会など、学校に行かないと経験できないことをえスポーツで経験できて良かった」と言われた時は、すごくうれしかったです。

えスポーツはさまざまな特性を持つ人とつながることができる新しい可能性を秘めています。人と人との交流を通じて、自分のさらなる可能性を見出してもらいたいと考えています。

障がいの有無に関わらず「ごちゃまぜの世界をつくる」。ここにたどり着くために、これからも進み続けます。

障がい者支援施設 サニーサイド

菊池市泗水町南田島1791-1 ☎0968(38)4448



施設長
宮崎嗣大さん

「障がいに対するイメージを変えたい」

16年前からアート活動をしています。既存の文化芸術にとられない自由な発想で創作する「アール・ブリュット」(生の芸術)を知り、ある利用者の絵がアール・ブリュット展に選ばれたことから、少しずつ活動が盛り上がっていききました。

障がいのある人がメディアに取り上げられ、評価されていることに衝撃を受けました。利用者の中には社会で苦い経験をして入所している人もいます。絵を描くことで社会に認めてもらえるという気付きの機会になりました。

アート活動を始めてからは利用者の心が穏やかになりました。強気な性格が絵を描くことで余裕が生まれ、利用者



6年前からは利用者の絵画を企業に貸し出す「レンタルアート」も始めている

間のトラブルが減りました。内気で恥ずかしがり屋だった利用者は、絵を描き始めてから自己表現をするようになりました。

サニーサイドでは通年ギャラリーで絵の展示をしたり、秋まつりなどの地域交流イベントを開催したりしています。実際に関わる場所を増やすことで、障がいに対する理解を深め、イメージを変えることができると思っています。

障がいと一言でいっても、いろいろなパターンがありま。一人一人の強みを生かし、その人らしく人生を歩んでいくためにどう支援できるかをこれからも考えていきます。

ボランティアグループ きくよう虹の会

菊池郡菊陽町久保田2596 ☎096(232)4824 ※菊陽町福祉支援センター内



代表
川端フジノさん

「障がいは一人一人の個性であり特性」

民生委員・児童委員として活動をする中で、障がいのある子どもたちやその親と接する機会がありました。話を聞いていくうちに「障がいのある人の自立を支援したい、正しい理解を広めたい」という思いに駆られ、約30年前に「きくよう虹の会」を立ち上げました。

月2回、障がいのある人とその家族、ボランティアの皆さんで和太鼓の練習やレクリエーションを行い、町内外のイベントで練習の成果を披露しています。演奏後には、地域の皆さんに声を掛けられることもあり、みんなとてもうれしそうです。

今では、太鼓を叩きたくて待ち切れずに準備を始めるメ



きくよう虹の会では全員が平等。演奏の準備や片付けも全員で行っている

ンバーもいます。そんな彼らの笑顔が私にとっても活動の原動力になっています。

活動を通じて、障がいへの正しい理解が広まれば地域でのつながりもできると思っています。「障がい者」ではなく、人の見た目がみんな違うように、障がいも個性であり特性です。ボランティアの皆さんも壁をつくることなく、対等な関係を築いています。

「虹の会」という名前にはそれぞれの色(個性)を持つ人が一つになれば、虹のように光り輝くという意味があります。これからも活動を通じて、誰もが認め合う社会をつくるお手伝いをしたいですね。

踏み出すことで、世界は変わる

(株)CREIT 代表 高橋尚子さん

17歳で交通事故に遭い、手足の自由を失った高橋さん。辛い経験をしながらも、社会的な障壁を除くための情報発信を続けています。大切にしているのは「心のバリアフリー」でした。



Shoko Takahashi



交通事故後、5年くらいは心が前向きになれない時期が続きました。生きる意味ってあるのかなって。そのモヤモヤを打破してくれたのが、ある美容師さんとの出会いでした。美容室は2階にあったのに、車いすごと私を持ち上げて店まで運んでくれて。本当にうれしかったことを覚えています。

このことがきっかけで、私と同じような境遇の人がもっと外の世界に目を向けてほしいと思うようになりました。現在は各種SNSで自身の経験やバリアフリーの重要性を発信しています。

近年は合理的配慮が義務化されるなど、少しずつ法律の整備は進んでいます。実際はあまり変

化を感じないのが現実です。だからこそ、お互いが相手を思いやり、理解しようとする「心のバリアフリー」を広げていく必要があります。

うまくサポートしたいと思うあまり、声を掛けられず無関心を装ったり、過剰に手伝ったりすることもあるかもしれません。でも声を掛けることで救われる人がいます。心掛けひとつでバリアは乗り越えられると思うんです。

障がいの「ある」「ない」に関わらず手を差し伸べる。そんな社会になってほしい。勇気を持って一步を踏み出すことで、階段も段差も、どんなバリアも、きつとなくすることができると私は信じています。